

之 附屬地内警察官ノ支那人取扱改善方ノ件

S 1.4.4.0-1 92

REEL No. A-0463

0415

アジア歴史資料センター

大正
機密

機密
第293號
18.7.16

亞細亞局

機密公第二六一號

大正十三年七月四日

在長春

領事 西 春 彦

外務大臣男爵幣原喜重郎殿

警察官、支那人取扱改善ニ関スル件

滿鉄附屬地内ニ居住スル邦人ハ附屬地行政ノ現状其他ヨリシテ其生活狀態ハ地ニ於ケルト異ナル処ナク支那國ニ在ルノ感シ甚ク薄キ為ニヤ兎角支那國係事項ニ冷淡ニシテ專ラ滿鉄其他邦諸機買ツ宗トレ不羈独立ノ精神ニ乏シク此等ノモノニ支那人ト提議スル經濟的活動等ヲ期待スルハ百年河清ヲ待ツノ思存之者、兎角附屬地ニ於ケル買取警察官吏ハ右兎角國境ノ裡ニ執務シ支那語ノ素養アルモノ甚ク少ク且ハ渉外事項ニ經驗少キモノヲ首長トスル等ノ關係上其支那人ニ對スル態度兎角因滑ク欠キ其職權行使ニ當リ甚ク不遜、振舞多ク力カ為支那官民ノ感情ヲ害シタル事例一二ニシテ止マラス素ヨリ彼等ニ時勢ノ推移ヲ全然解セサルニ

在長春日本領事館

在長春日本領事館

S 1.4.4.0-1 94

S 1.4.4.0-1 93

非ラサルヘシト雖モ死罪及警察関係ノ
 事務ニ没頭セル彼等トシテハ動モスレハ
 支那人ヲ考奪視スル潛立意識ノ其動
 ヲ見支那人ニ対シ改打創傷ヲ加フル
 ノ例不尠殊ニ甚シキハ犯罪嫌疑者
 ノ審問ニ際シ拷問ヲ行ヒ犯罪ヲ自白
 セサル者ニ対シテハ鼻コリ冷水ヲ逆
 簪ヲ手指ノ間ニ挿入シテ強制ヲ加ハ
 甚シキニ至リテハ麻繩ニテ身体ヲ縛
 リ上ケ胸間ニ煙草火ヲ押シ付テ又
 ハ小金棒標ノモノニテ強ク筋骨ヲ搥
 ラ上ケテ自白ヲ強要シツ、アリ右拷
 問ハ成ルヘク後日ニ証跡ヲ遺サハル

在長春日本領事館

蘇方法ヲ講スルニ努ムルモ時ニ失敗ニ
 終レコトアリテ問題ヲ惹起シテモ
 現ニ最近当地ニ於テ支那旅倭悦
 來林使用人其他西三名ニ対スル拷
 問事件起リ支那官憲ヨリ非ニ成
 ニ事件ヲ提起セラレ其処置ノ頗ル
 困難ヲ感シタル事アリ(六月六日官
 憲奉天總領事宛公領第一八号字矣
 照)殊ニ当地悦來林主人ハ奉天悦
 來林主人祖章子某ノ弟ニシテ事
 件ノ當時祖ハ夫人同伴事件善後
 方ノ為態々某長約二週百滞セ
 セルカ人々ノ妻ハ張作霖ノ最モ寵

愛スル第五夫人ノ妹ナルヤニテ方々
 事件成行ニ其先方ニ不満ノ感ヲ抱
 カシムルニ於テハ各地紙日紙等ノ利用ス
 ル処トモナシヘク依テ小官ハ令人夫妻
 等ヲ歡迎待シ不件ハ道尹ト糸満ノ解
 快スヘキ旨ヲ告ケテ歸奉セシメ道尹
 トハ前頭杜信祈報、処分ニテ零々
 事件ヲ解決シ今日迄無事ニ経過シ
 居ルニ此種拷問等ノ暴行ハ沿線各
 地ニ行ハレ居ルカ如ク当地ニ於テハ過者一
 年百ニ於テ既ニ数件アリ之ニ対スル警察
 署長ノ態度ヲ見ルニ小官著任以來署長
 三名更迭セリ各署長ノ性格等ニ依リ素
 コリ相違アルモ何レモ満足ナル處分シ
 行ハス甚シキハ関係者タル部下カ全知
 于知セスト申立ツレハ其供カ之ヲ取次キ
 敢テ別ニ署長ノ意見及善後策ヲ立テ
 ントハセス稱良奴ナルモノハ至係支那込
 捕ヲ兎贖スルモノ即人斃官ニ対シテハ容易
 ニ責任ヲ負ハシムルコトヲ許セス(前頭杜信
 予照)此場合ニ於テ先送捕ノ窮究スル
 者方ヨリノ嚴重ナル要ホニ其ニキ漸ク
 決行セラル、實状ナリ右ハ滿洲ハ所
 謂馬賊ノ梁信屬ニシテ力カ速捕並審
 問ハ頗ル困難ナリ之ニ對シテ或ハ無
 罪ヲ行フニ非サレハ犯罪ノ發見及防止

在長春日本領事館

ノ效ヲ奏セサル実状ナルニ右ノ如キ失態
 アル場合一々責任ヲ負ハシムルハ警察官
 ノ士氣ヲ阻喪セシムルモノナリトノ見解
 ヲリ来タレルモノニシテ又一方署長ノ
 責任及立場ヲ無難ナラシ
 メシトスルニモアルヘク前者ハ一
 ムシ得サルニ出ツト認メラル、モサリト
 テ支那例ニ対シテハ支那官兵等ノ暴
 行事件ヲ生スルニ及ニ暴行有並直接
 監督者ノ処罰ヲ要求シテ予
 ノ事例ヲ生セル場合ニ相手方ヨリ正
 ト認メラル、処置ヲ執ラサルニ於テハ
 片手落ノ憾多ク我方ノ誅意ノミナ
 ラス日本警察官ノ信用ヲ害スルニ甚シキ
 モナル処領事ハ警務署長ニシテ如
 上ノ態有ナル限リ莫東廳事務官ト
 シテ何等権限ノ付定ナキニ到
 満足ナル措置ヲ行フコト能ハス
 此種権限ノ付定セラル、ニ至ル
 二於テモ畢竟人事ノ系統ヲ因
 スルニカ此ノ如キ案件ニ及リ
 テハ暗ニ整シ務署長ノ責任ヲ
 トナルヘリカテハ署長ヲシテ
 廳ニ対シ困難ナル立場ニ立
 トナリ此有ノ措置ハ甚タテ
 ナル事能ハシ生セサルヲ得
 サル次第ナリ

在長春日本領事館

支那側ニ対シテハ十分ノ誠意ヲ示ス必
 要ト意思トシテ有シ乍ラ一方対内関係
 一於テ前速ノ如キ立場ニ立ル端然沿線
 領事ノ職務ハ難中ノ難ト云フハシ
 右ノ事情ハ先般滿州領事會議決
 議ニ係ル行政統一案第一案ヲ急速
 ニ実施シ領事力警察官ノ行動ニ對シ
 完全ニ指揮監督ヲ行ヒ之ニ對シ自ラ
 全責任ヲ負フノ制カテ確立シ以テ
 對支外交シ円滑ナラシムルノ必要ヲ
 痛切權辯ニ物議ハ之ノト存セラレ
 莫糸右統一速成方ニ付當下所考
 慮相煩交高一方差者ノ一措金ト
 在長春日本領事館
 シテ擧向察止其他警察官ノ對支
 人態交改善方ニ付目下所歸朝中
 ノ兎玉買東長官ニ對シテ毛適者ノ時機
 於テ密下ヨリ即注意呈相成様致
 交此段申進云々
 敬具

追テ擧向察止方ニ付テハ買系
 廳ハ直接文書ヲ以テ申入ルニ
 禮々ノ関係ニ於テ支障アルニ付合
 廳買係為局ニ對シテハ本官直接
 口頭ヲ以テ或ハ又飛津奉天總領
 事ヲ煩ハシ數次申入置云々右所
 承知置相成交高下件ハ三月三

日軍一機密合第五七号ヲ以テ所下
命有之矣。滿洲ニ於テ排日ノ原因
トナルカ如キ施設慣行調本ノ件
中ノ最モ重要事項ト認メラレテ
周右師承知置相成交ス。

寫送附先

在支公使 滿鐵沿線各領事

在長春日本領事館

S 1.4.4.0-1

103